

# Media Release

## 外国政府観光局 45 団体の日本語サイト実態調査まとめ

在日外国観光局協議会 (ANTOR-JAPAN) に加盟する外国政府観光局 45 団体を対象に、日本語ウェブサイトの実態調査を 21 のチェック項目を設けて実施しました。

§1 日本発のツアーへの導線(リンク)があるのは 61 パーセント

§2 ブログでの情報発信は 14 パーセント、メルマガ配信 36 パーセント

株式会社ツーリズム・マーケティング研究所(本社:東京都中央区、代表取締役社長:前田和久)は、外国政府観光局の日本語サイトに関する調査結果を発表しました。

この調査は、在日外国観光局協議会 (ANTOR-JAPAN) に加盟する外国政府観光局 45 団体 (\*) を対象に、公式日本語ウェブサイトの有無をはじめ、サイトのみつけやすさ、提供している情報の内容と新鮮性、販売へとつなげる導線、サイトを通してのお客様との双方向性、サイトの使いやすさについて、21 のチェック項目を設け、日本語サイトを通じたサービスの実態を調べたものです(2006年3月現在)。

\*) ANTOR-JAPAN に加盟する「国際機関アセアンセンター」は今回、調査の対象外としています。

~~~~ 調査結果の注目ポイント ~~~~

### 日本語サイトを開設しているのは全体の 98%

ANTOR-JAPAN に加盟する 45 の外国政府観光局のうち、日本語サイトを開設しているのは、イタリア政府観光局以外の 44 観光局で、全体の 98% でした。

~~~~ テーマ別の注目ポイント ~~~~

### 二大検索エンジンで、ともに第 1 位に表示された日本語サイトは全体の 59%

「各国・州観光局日本語サイトの見つけやすさ」については、検索エンジンとして一般的なヤフー、およびグーグルで、キーワード「国名 + 観光」を入力して検索し、その結果をみました。州政府観光局については、州内の日本人にとって一般的と思われる「都市名 + 観光」で検索しました。

その結果、これら 2 大検索エンジンでともに第 1 位で表示されたのは 26 観光局のサイト(59%)でした。検索エンジン別にみると、検索結果がトップ 10 入りした観光局は、ヤフー検索で 37 観光局(84%)、グーグル検索では 38 観光局(86%)となりました。

## 業界向け、動画利用、バリアフリー情報の提供には各局間に差も

日本語サイトにおいて、「観光局が提供する情報の内容」について、5 つのチェック項目を設けました。現地観光以外の情報で、アクセス情報、国の地図において州や都市の位置をはじめ、障害者や高齢者向けにターゲットを絞った旅行関連情報をバリアフリー情報、動画による現地映像の配信、あるいは旅行業界向けにセクションを設けて情報提供しているかを調査しました。

ゲートウェイ空港からのアクセス情報は 40 観光局、全体の 91%、国の全体地図の中で州や都市の位置を明記していたのは 41 観光局、同じく 93%と、いずれも高い水準でした。一方、旅行業界向けのセクション、動画利用、バリアフリー情報の提供は、順に 28 観光局(64%)、20 観光局(45%)、13 観光局(30%)と、各観光局サイトの取り組みは異なります。特に、ニュージーランド政府観光局は、別途「旅行業界用サイト」というセクションを設け、トレーニングツールを含む広範にわたる情報を提供しています。フランス政府観光局ではテレビコマーシャルを動画で流しています。さらに、バリアフリー情報に関しては、ベルギー観光局の日本語サイトが大変充実していました。

## サイト更新による新鮮な情報提供に関する意識は意外と低い？

「新鮮な情報を提供しているか」について、日本語サイトが適宜更新されているか、旬であるイベントやコンサートなどの情報が提供されているかを見ました。過去 1 カ月以内に最新情報を掲載していたのは 70%で、31 の観光局でした。31 の観光局以外にも、明らかに 1 カ月以内にサイト更新がされている日本語サイトもありましたが、消費者の視点を考慮して、視覚で更新日を確認できないものについては、今調査では「1 カ月以内に最新情報の更新はなかった」と判断しました。

イベント情報の項目を掲載していたのは、86%、38 観光局と、高い割合となりました。なかには、05 年の情報が掲載されているサイトや、年度が明記されていないイベント情報もあり、アップデートなイベント情報の掲載が望まれます。

## 日本の旅行会社にリンク(紹介)していたのは全体の 61%

各観光局が現地の旅行情報のほかに、消費者に対して日本の旅行会社やホテル、現地ツアーやアクティビティ催行会社を紹介し、「次のアクションへつなげる導線」が確保できているかを見ました。すべてに関して導線を確保していたのは 25 観光局で、全体の 57%でした。日本発のパッケージ商品を販売する日本の旅行会社を紹介、あるいはリンクを張っていたのは 61%、27 観光局と、ホテルや現地ツアーに比べると、低いパーセンテージとなりました。また、ホテルの予約サイトや現地ホテルのサイトとリンクさせていたのは 39 観光局 89%、現地ツアーやアクティビティ会社を

紹介していたのは 37 観光局 84%でした。

## ブログでの情報発信は 14 パーセント、メルマガ配信 36 パーセント

サイトを通じた消費者との双方向性についても調査しました。日本語サイトのほかに、メールマガジンを発行しているのは 16 観光局で、全体の 36%にとどまりました。さらに、ブログを立ち上げているのは 6 観光局で、わずか 14%、「トラックバック」機能(\*)を付加させていたのは 4 観光局だけでした。最新情報などのサマリーを配信できる RSS 機能(RDF、XML 含む)を導入していたのは、2 観光局で、全体の 5%にすぎません。

アイテナリー(日程)作成機能や“マイガイドブック”的な編集機能を持たせている日本語サイトは 4 観光局で、全体の 9%と、低い水準となりました。同時に、アイテナリー作成機能などに必要な会員制度(CRM)を導入していたのは、5 観光局(11%)でした。

### \* <参考>トラックバック 【track back】

ウェブログ(ブログ)の機能の一つで、別のウェブログへリンクを張った際に、リンク先の相手に対してリンクを張ったことを通知する仕組みのこと。

ウェブログ作者が別のウェブログの記事を参照して自身のサイトにコメントを掲載するような場合、元の記事へのリンクを張るのが一般的だが、単にリンクしただけでは元の記事の作者はどこからどうリンクされているのか容易に知ることはできない。トラックバックはリンク元サイトに「このような記事からリンクを張った」という情報を通知する仕組みで、リンク元記事の URL やタイトル、内容の要約などが送信される。トラックバックされたサイトはこの情報を元に「この記事参照している記事一覧」を自動的に生成することができる。

相手に送信されるトラックバック通知のことを「トラックバック・ピング」(trackback ping)と呼び、通知の送信先を「トラックバック URL」(trackback URL)という。多くのウェブログの記事には隅に「この記事へのトラックバック URL」が記載されている。

(「e-Words IT 用語辞典」より引用)

## サイト内検索機能を付加しているのは全体の 36%

「各サイトの使いやすさ」を見るうえで、今調査では、サイト内検索機能と本文テキストがきちんと印刷できるように設定されているかを調べました。いずれのチェック項目をもクリアしたのは 7 観光局のみでした。サイト内検索機能を持つ日本語サイトは 16 観光局(36%)と、意外にも少なく、本文テキストの印刷が A4 サイズのコピー用紙にきちんと収まってプリントアウトできたのは 21 観光局のサイト(48%)にとどまりました。

---

上記をはじめとした調査結果の、観光局別のスコアレポートについては、ツーリズム・マーケティング研究所までお問い合わせください。

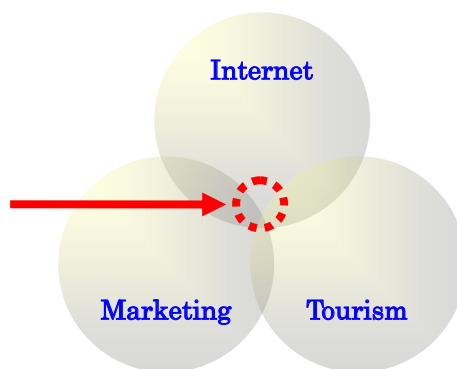
---

**【株式会社ツーリズム・マーケティング研究所について】**

観光に専門特化したシンクタンクとして2001年6月に設立されました。資本金2億円で、株式会社ジェイティービーが全額出資しました。ツーリズムに関連する調査や分析、コンサルティングなどを手がけています。おもなクライアントは官公庁や地方自治体、航空会社、外国政府機関や外資企業、旅行会社などです。

※ツーリズム・マーケティング研究所の「インターネット研究室」では、航空会社や政府観光局をはじめとしたツーリズム関連企業に、インターネットに関する下記のサービスを提供しています。お気軽にご相談くださいませ。

- ウェブサイトの新規構築・リニューアル構築
- 現ウェブサイトのユーザー行動分析
- インターネット展開の戦略策定
- グローバル企業サイトの日本語化
- メールマガジン等の企画・制作・配信
- CRMの計画策定・開発・実施
- ブログ構築・カスタマイズ設定
- ウェブマスター業務の請負
- アクセス増加のための施策実施



このプレスリリースの内容に関するお問合せ  
株式会社ツーリズム・マーケティング研究所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-2 新日石ビル2F  
TEL 03-6268-0900 (代表) FAX 03-3217-8580

URL : [www.tourism.jp](http://www.tourism.jp) Mail : [webmaster@tourism.jp](mailto:webmaster@tourism.jp)